

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	令和元年度第1回枚方市環境審議会環境基本計画策定部会
開催日時	令和元年7月2日（火） 18時00分から 20時00分まで
開催場所	枚方市市民会館 第6集会室
出席者	委員：小杉委員、多田委員、谷本委員、花田委員、原委員、廣寄委員、福岡委員、藤田委員、益田委員、安田委員
欠席者	田中委員、豊高委員
案件名	【案件】 （1）第2次枚方市環境基本計画策定以降の社会状況等の変化について （2）市民・事業者アンケートの実施について （3）ワークショップの実施について （4）今後のスケジュールについて
提出された資料等の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 第2次枚方市環境基本計画策定以降の社会状況の変化と取り組み状況について ・資料2-1 枚方市環境基本計画策定にあたっての市民アンケート案について ・資料2-2 枚方市環境基本計画策定にあたっての事業者アンケート案について ・資料3 ワークショップの実施について ・資料4 今後のスケジュール（案） ・参考資料1 平成30年度第1回枚方市環境基本計画策定部会における意見要旨
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業者アンケート案について、指摘内容を反映し、アンケート発送前に各委員で最終確認を行う。 ・ワークショップについて説明を受けた。 ・今後のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	0
所管部署（事務局）	環境部 環境保全課

審 議 内 容

1 開 会

部会長：ただいまから令和元年度第1回枚方市環境審議会環境基本計画策定部会を開催します。
事務局から委員の出席状況の報告をお願いします。

事務局：本日は、委員11名の内、9名のご出席をいただいております。従いまして、枚方市環境審議会規則第4条第2項の規定に基づきまして、本部会が成立していることをご報告申し上げます。

部会長：ありがとうございます。本日、傍聴希望の方はおられますか。

事務局：おられません。

部会長：それでは、本日の議事を進めさせていただきます。本日の部会では、第3次枚方市環境基本計画の策定に向けた基礎資料となる、第2次枚方市環境基本計画策定以降の社会状況変化について、また、市民・事業者アンケートやワークショップの内容について検討してまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

案件に入ります前に、事務局から本日の資料の確認をお願いいたします。

事務局：資料を確認させていただきます。

次第

資料1 第2次枚方市環境基本計画策定以降の社会状況の変化と取り組み状況について

資料2-1 枚方市環境基本計画策定にあたっての市民アンケート案について

資料2-2 枚方市環境基本計画策定にあたっての事業者アンケート案について

資料3 ワークショップの実施について

資料4 今後のスケジュール（案）

参考資料1 平成30年度第1回枚方市環境基本計画策定部会における意見要旨となっています。過不足はございませんでしょうか。

案件1 第2次枚方市環境基本計画策定以降の社会状況等の変化について

部会長：それでは、案件1第2次枚方市環境基本計画策定以降の社会状況等の変化について、事務局から説明をお願いします。

事務局：【資料1により説明】

部会長：ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見やご質問はございますでしょうか。

委員：資料はこのまま公表されるのでしょうか。

事務局：修正を加えた形でホームページでの公表を考えております。

委員：政府はSDGsを「持続可能な開発目標」としていますが、資料1の4ページで「持続可能な発展目標」と表記されていますので、修正された方が良いと思います。

事務局：修正させていただきます。

委員：図表等の軸の説明や単位が入っていないものがありますので、修正をお願いします。

委員：生物多様性国家戦略の5つの基本戦略に基づく取り組みが求められています。生物多様性を社会に浸透させることが一つ、二つ目が地域における人と自然の環境を見直し・再構築する、三つ目が森・里・川・海のつながりを確保する、四つ目が地球規模の視野を持って行動する、五つ目が科学的基盤を強化し、政策に結びつけるとされており、今回は五つ目の項目が加わっています。生物多様性国家戦略は社会一般に取り組みが求めら

れていると思いますが、地方公共団体に対してはどのようなことが求められているのでしょうか。

事務局：国家戦略は 2020 年度までの計画ですので、それ以降については調査が必要ですが、法律のなかで地域戦略を作っていくことが位置づけられています。国のガイドラインを踏まえながら地方自治体として何ができるのか整理し、次期環境基本計画に反映していきたいと考えております。

委員：資料 1 の 2 ページの平均気温の推移の図ですが、1993 年に調査場所を変えているとのことですので、基地局の地上観測場所のデータを併記する等しなければ、公表するデータとして問題があるのではないのでしょうか。

事務局：大阪管区气象台にも確認いたしました。例えば測定地点から 5m、海上の高さが概ね 50m 以内の地点で並行測定し、連続性が一定保てる地点を選んでいるとのことでしたので問題ないと考えておりますが、どのように説明するかは難しいと思います。

委員：別件で、大阪府内の複数の観測地点のデータをひとつにまとめ、資料 1 のような図を作成しましたが、枚方市内と大阪市内の気温にあまり変わりがありませんでした。図の曲線が分断されていませんし公表しても問題ないと思うのですが、他の自治体の気温も色を薄くするなどして参考に併記すると良いと思います。ただ、温度の上昇傾向という表現に猜疑心を感じており、2000 年以降は高止まり傾向にあるという表現が現時点では正しいと感じています。

委員：温暖化によるものではなく、ヒートアイランドによる上昇傾向と表記すれば良いのではないのでしょうか。

委員：観測地点を変えるまでは上昇傾向にあったのが、それ以降あまり変化がありません。途中でデータが途切れていることもあり、わかりにくくなっているような気がします。

事務局：他市の例や比較等して、資料を修正させていただきます。

委員：資料 1 の 7 ページのごみの再資源化率ですが、明らかに瓶や紙のような再資源化できるもの自体が少なくなってきたり、取り組んでも数値的な成果が見えない状況と思われると思います。そのことを記載するべきか、部会にて決めていただければと思います。

部会長：市民 1 人あたりの 1 日のごみの量は、家庭系一般廃棄物ですか。

事務局：事業系も含んでいます。家庭系と事業系も足して、市民の人数で割っています。

部会長：ごみは減っていく傾向にあると思いますが、事業者だと一定期間になるとごみが増えたりするので難しいですね。

事務局：第 2 次環境基本計画でも環境指標の設定をしており、第 3 次環境基本計画でもごみの分野の指標を考えていかなければならないので、ご意見をいただければと思います。

委員：5 ページの図 11 ですが、緑被面積の推移を平成 20 年度以降は 5 年ごとにとっていますが、それまでは 5 年ごとではありません。10 年に 1 回ぐらいのデータを掲載しているということでもよろしいですか。軸が等間隔であるのに、年度が違うということに違和感があります。また、その下の文書で緑被面積や植物や哺乳類、昆虫類、鳥類は、図 11 と図 12 で大きな変化は見られない状況となっていると記載されていますが、平成 2 年と平成 30 年を比較すると農耕地の面積が減っていたり等、大きな変化が見られないと判断して良いのかと感じます。

事務局：緑被面積全体としてイメージしていましたが、内訳の変化も加えていきたいと思っています。

部会長：他にご意見はありますか。

ご意見がないようですので、案件 1 については以上とします。

案件 2 市民・事業者アンケートの実施について

部会長：続きまして、案件 2 「市民・事業者アンケートの実施について」、事務局から説明をお願い

いします。

事務局：【資料 2-1 により説明】

部会長：ただいま事務局から、市民・事業者アンケートの実施についてご説明いただきましたが、ご意見やご質問はございますか。

委員：1 ページの市民アンケートで把握したい項目、10 年、20 年、30 年先の望ましい環境像についてですが、質問の仕方として 10 年、20 年、30 年をまとめて質問するよりも、それぞれに回答させるか、例えば 20 年後に限定して回答させた方が良いと思います。

事務局：現在は 10 年計画と考えており、10 年先が良いのか、さらに先が良いのか、検討させていただきます。

委員：計画に対してのアンケートであるため、10 年先とするのが良いのではないのでしょうか。

事務局：10 年計画であることを踏まえ、質問の仕方を検討したいと思います。

委員：8 ページの間 10 ですが、キャッチフレーズを聞いているように思うのですが、それで良いのでしょうか。

事務局：計画のなかで、めざすべき環境像について示すため、アンケートを通して市民がどう思っているのかを聞きたいという事務局の思いがありました。また、環境基本条例でも将来のイメージを示しており、事務局としてこのイメージとあまり変わらないだろうという前提があり、このような質問の仕方となりました。委員の皆様のご意見をいただきながら検討させていただきたいと思います。

委員：圧倒的にパターン B が良いと思います。

事務局：パターン B にすると、3 ページの間 4 と似通った質問になってしまうのですが、わかりやすいのはパターン B であると思いますので、ご意見をいただきながら方向性を決めていきたいと思います。

委員：枚方市の環境のイメージは、郊外都市型の住宅があり郊外に田園地帯が広がっているイメージがあり、その環境を保つことを前提にアンケートを作成していると思いますが、30 年後には枚方市駅周辺は発展した商業地区になり、工業団地を誘致する等、産業をまちに入れていこうとは考えていないのですか。環境とは、豊かな自然の中で静かに暮らせるだけでなく、都市部は都市部なりの環境もあると思います。便利な都市空間として発展したいのか、郊外型に特化したまちづくりをしていきたいのか等、自分たちのまちがどう発展していきたいかイメージをもつことが重要であり、そのような質問をした方が良いのではないのでしょうか。高齢者にとって利便性を考えると、都市であることは重要であり、都市部として発展することは悪いことばかりではありません。自然環境だけでなく、都市環境も含めていかなければならないと思います。

事務局：環境基本計画では、温暖化や自然環境についてだけでなく、あらゆる分野で総合的に施策を進めていきます。今おっしゃっていただいたようなことをアンケートで質問できるか検討いたします。また、アンケート結果やワークショップの結果によっては、計画に反映することもできると思いますが、それを計画のなかでどう示していくかも検討が必要と考えます。

部会長：次期計画に市民や事業者の考えを反映できるよう、アンケートの作成をしていただけたらと思います。

委員：アンケート設計についてですが、回答者が迷わないことが重要です。現状の満足度について、「とても満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらかといえば不満」、「とても不満」の選択肢で、「とても」は不要ではないのでしょうか。「とても」が必要である場合は、「どちらかといえば満足（不満）」の間に「満足（不満）」の選択肢を加えなければ、回答者

は迷ってしまうと思います。改善の重要度については、「とても重要」の反対の意味は「とても重要でない」、「重要でない」の反対の意味は「重要である」ではないでしょうか。また、「環境活動への参加のしやすさ、機会の多さ」を例にあげると、一つの項目に対して二つの質問をしています。自然環境ですと、生き物の種類の豊かさの「豊かさ」とは、種類が多いのか若しくは希少な生き物が増えてきているのか、豊かさの基準が人によって違うなかで、ひとくくりにしてしまっても良いのでしょうか。都市環境の歴史的・文化的資源の豊富さ、身近さについては、豊富であるから身近であるとも限らないと思います。一つの項目で迷わせるような聞き方になってないかが気になります。また、8 ページの間 10 のパターン B の選択肢のひとつの「エネルギー効率的に活用し、地球にやさしいまち」について、なぜ「地球にやさしいまち」をあえて入れているのか、また「きれい」が複数回出てきているが、風景が「きれい」と川が「きれい」の「きれい」は同じ「きれい」なのか、用語の使い方と限定の仕方には検討の余地があるのではないのでしょうか。選択肢と一つの項目で二つの質問をしている点については、必ず検討をお願いします。

部会長：5 ページの環境保全活動についてですが、「機会があれば」を入れているのは、「参加したことがない」を選択するのを避ける意図があるのではないかと思います。何か良いアイデアはありますか。

委員：機会のあるなしで参加するかしらないかが変わるのであれば、まず機会があるかないかを質問し、ない場合は機会があれば参加するのかしらないのかを質問するといったようにツリー状に質問していった方が良いと思います。

委員：「必ず参加している」も気になるので、「よく参加している」が良いのではないのでしょうか。

事務局：「積極的に参加している」、「たまに参加している」、「参加したことがない」と大きく分け、かつ年代別等でどう影響してくるかを分析できたらと考えています。今後の環境基本計画を策定するなかでも、環境保全活動に参加していただくことが重要だと思いますので、このアンケートで傾向をつかんで、計画に反映できればと考えています。

委員：今の話ならば、問 6 は「参加したことがない」のか「参加したことがある」をまず質問しなければなりません。「参加したことがない」と回答した人に対して「今後参加してみたいのか」を問わないといけないと思います。「参加したことがある」と回答した人に頻度を聞くのであれば、どう参加しているのかを聞くこととなると思います。「参加したことがある」「参加したことがない」の選択肢に「今後参加してみたい」と「参加したことがない」が加わっているから違和感があるのだと思います。

委員：「よく参加している」「参加したことがある」「今後参加してみたい」「今後参加するつもりはない」にすれば、すべてを 4 項目で聞けるのではないのでしょうか。

部会長：ありがとうございます。次に無作為抽出についてですが、何%アンケートが返ってくるかは分かりませんが、送付する数等については事務局で調整が必要ではないのでしょうか。

委員：高齢者より若年層の方が非協力的であるため、若年層に多くアンケートを送付しないと回収率は上がりません。

部会長：18～19 歳が 2 歳分しかないため、無作為抽出すると 18～19 歳が抽出数とても少なくなってしまう、結果、18～19 歳の回収率も著しく低くなってしまうと思います。

委員：住民基本台帳から抽出するのでしょうか。選挙人名簿だと年齢も使えるのではないのでしょうか。

事務局：年齢別の抽出が可能か等、どこまでできるかは確認いたします。

委員：地域別はどうでしょうか。

事務局：地域も人口比が違うため、整合性をとって抽出するのは難しいと思います。

部会長：地域別にみることが重要でないのであれば、単なる無作為抽出が良いと思います。

委員：地域ごとに年齢を振り分けて抽出した方が良いと思います。例えば、各地域、各年代で100件ずつ返ってきてほしいのであれば、それに応じて若年層を多めに送った方が良いと思います。

事務局：調べたところ、母集団が10万人とした場合、1,000人の返信があったときに、統計上の標本誤差は3%とのことでした。今回は3,000人を対象としており、1,000人の回答が返ってこれば大体の傾向が掴めると思います。また、前回の温暖化計画では回答率が約55%、枚方市総合計画では回答率が約45%となっており、アンケートの返信先を市役所に行っていると返信率が高くなる状況があります。回答率を低くみて40%とし、1,200程度の回答があれば十分と考えています。環境基本計画は大きな方向性を決めている計画ですので、市民アンケートで大きな傾向をつかみ、ひとつの材料としては大きな分析で良いと考えております。

委員：年齢構成は大丈夫でしょうか。

事務局：後ほど説明しますが、高校生を対象としたワークショップでそれぞれの年代の意見も聞いていければと思います。市民アンケートで細かく分析をして施策に反映させていくのではなく、環境基本計画は大きな方向性を示している計画ですので、市民の意見の傾向を掴めればと考えています。

部会長：事業所アンケートの無作為抽出についてですが、規模等を考えずに無作為抽出するのはどうなのでしょう。

事務局：統計データの提供を受けて、ばらつきがないように事務局で選んでいくこととなります。

委員：市内にすべての業種があるのでしょうか。

事務局：市内にない業種もありますので、まとめていきたいとは考えております。

委員：業種別や従業員規模にばらつきがあるなかで、例えば、農業・林業は市内で2社しかない場合は、いずれか1社を選ぶこととなると思いますが、その1社が農業・林業を代表することとなっても良いのかという問題が発生するのではないのでしょうか。

事務局：業種別でどこまでクロス集計するか考えているところです。業態によって、取り組みや考え方が違ってくると思うので、そこを中心にクロス集計と考えています。業種別で聞いておくことで、何か傾向が掴めることもあると思います。

委員：事業者は協力的であるため、7割近くの回答があるとすれば140事業者回答があることとなりますが、それをどう評価するのかは検討が必要と思います。

委員：例えば、経済センサスで多い業種の上位10業種をパレード図にして、そこから選んで調査を行うといった方法もあると思います。

委員：業種の区分を、「第一次産業」、「第二次産業」、「サービス業」、「その他」に分ければ、200事業者でも意味のあるデータとなるのではないのでしょうか。

事務局：業種をここまで細かく分けても分析が難しいと思いますので、もっと大きく業種を分け、今おっしゃっていただいたような選び方についても検討いたします。

委員：あるいは、業種の区分はこのままにしておいて、集計のときにまとめても良いのではないのでしょうか。

委員：このままの方が、回答者は回答しやすいと思います。

委員：集計のときに「第一次産業」、「第二次産業」、「第三次産業」といった従来の区分とすることを含めて検討すれば良いと思います。

事務局：わかりました。

委員：事業者アンケートの問1-2の選択肢で「オフィスビル」と記載がありますが、ビルとは限らないと思いますので「事務作業中心のオフィス」といった表現に変えた方が良いと思います。

部会長：問3の質問について、一つの文書に「～について」が二つあるため、区切った方が良いと思います。

事務局：修正いたします。

委員：先程の業種の話に戻ってしまいますが、業種や事業形態を詳しく区分してしまうと、匿名でアンケートを行っていても特定できてしまうことから、回答しない事業者や嘘を書くような事業者がでてくるようなことはないのでしょうか。

委員：極端に少ない業種や300人以上の事業所は内容によっては特定できるかもしれませんが、それ以外は特定できそうにないので、問題ないのではないのでしょうか。ついでの話ですが、従業員規模を細かく分けすぎではないのでしょうか。

事務局：大きく分けさせていただきます。

委員：問1-2ですが、本社もしくは支社かによって経営者の考え方も変わるので、そのようなところも見てみてはどうでしょうか。また、事業者として、環境やごみについては難しい問題だと思います。事業者として事業拡大のため用地を開発したい、枚方市であると東西の交通道路を整備して時間短縮してほしい等、産業のなかではいろいろな話がでてきているなかで、環境と結びつけたときにどこまで答えて良いものか、個人的もしくは事業者として答えるのかいつも悩みます。そのような意見がでてきても面白いと思いますが、自分の住むまちがどのように発展していきたいのかとあわせて、産業の発展と環境についての意見も聞けると非常に良いと思います。

事務局：市民アンケートでは個人の意見を書きやすいですが、事業者アンケートでは個人の意見を書いていただくのは難しいと思っています。事務局でも当初検討していたことではありますが、事業者の担当者の意見として書くことはできますが、それは市民アンケートで対応できるという考えがありました。

委員：問4で、事業で環境に配慮した製品の研究をしている等、ESG投資について聞いてみるのも良いのではないのでしょうか。

部会長：ESGとはE（環境）、S（社会）G（ガバナンス）で、ESGがしっかりしている企業に対して投資するというのが最近の流れです。灯油や石炭関連の産業からお金がどんどん引き上げられているようなお金の流れが世界ではあります。

事務局：会社としての投資というアプローチで質問できればと思います。

委員：事業者アンケートの5ページの間5についてですが、質問は、「あてはまる番号を一つ選び、○で囲んでください。」とされていますが、その下の【 】内では「複数回答可2つまで」とされています。また、深い意図はないと思いますが、間5のみ自由記載欄が極端に狭くなっております。その他、「あてはまる番号に○をつけてください。」や「一つ○をつけてください。」等、書きぶりを統一し齟齬のないようにしていただきたいと思います。

委員：今まで意見を言わせていただいていたような、まちのなかのバリアフリー化といった環境や道路の渋滞、香りの公害や化学物質によるアレルギー等に困っている方が具体的に意見を書けるような設問を考えていければと思います。また、警察の分野になるかもしれませんが、枚方のまちを考えたときに「夜に一人歩きができるか」という質問もあれば良いと思います。それは、空家が放ったらかしになって草が生い茂っていることが、一人歩きできない理由に繋がってくるのではないのでしょうか。また、生き物の種類の豊かさになるのかもしれませんが、アライグマやヌートリア等が増え続けていることについては、どこで意見を書いたら良いのでしょうか。また、リサイクルの観点から「メルカリを使っているか」の質問、生態系を壊さないよう「香料や化学薬品を使わない生活をしているか」といった質問もあれば良いと思います。

部会長：今のお話は、環境基本計画のなかの生活環境に当たるかと思います。市民がどう考えているのか、この機会にアンケートをとれば今後の施策に反映できるので、大きな意味が

あると思います。また、有害鳥獣のことについてもアンケートの中に入れていただければと思います。他にご意見はございますか。

委員：市民にはもっと活動に参加していただきたいと感じています。QRコードを掲載するだけでなく、枚方市で実施している清掃活動や生き物調査等の活動を紹介すれば、活動の周知にも繋がりより良いと思います。アライグマに関する項目も入れていただければと思います。

委員：公共施設では喫煙ができなくなっていますが、喫煙場所には空気清浄機を設置する等して煙が漏れないようにしていただきたいと思います。

委員：アンケートの対象は、以前から18歳以上であったのでしょうか。18歳以上は選挙権はあるものの、政治になるかは別の問題です。本来は未成年に対しては親の同意を得ることが鉄則です。「アンケートの趣旨を理解して回答しています」という項目を設けてチェックしてもらうなど、アンケートについて理解していただいている証のようなものが必要ではないでしょうか。以前も18歳以上を対象にアンケートを実施していること、環境基本計画に対するアンケートであり心的ダメージを受けるものでもないので、大きな問題はないかと思いますが、未成年へのアンケートは慎重に扱った方が良いと思います。

部会長：個人の行動について質問はしていますが、他はどう考えているかを質問しているので問題はないと思います。

委員：アンケートには依頼文をつけるのですか。アンケートの説明や、回答したくなければ回答しなくでもいいというような文書もつけた方が良いと思います。

事務局：依頼文の内容は工夫して作成します。

委員：可能なのであれば、アンケートの送付対象者がインターネットで簡単に回答できるようにすれば、回答率が上がるのではないのでしょうか。郵送とインターネットでの回答を可能とすれば難しいこともあると思いますが、確実に回答率は上がると思います。

事務局：パスワード設定により、特定の人のみ回答できるような仕組みを作れるのか確認をします。

委員：家族が回答しても良いようなアンケートなのであれば、パスワードをひとつでも設定し、QRコードで回答フォームへ移れるようにしても良いかもしれません。

委員：インターネットアンケートの場合、パスワードが出回ってしまうと3,000以上の回答が集まる可能性もあると思います。また、紙になると面倒で適当に記入してしまう可能性もあり、一長一短あると思います。

部会長：たくさんご意見いただき、ありがとうございます。本日いただいたご意見を踏まえ、事務局で調整をお願いいたします。アンケート発送のスケジュールはどうなっていますか。

事務局：7月の下旬にはアンケートの発送を予定しており、可能な限り調整いたします。

部会長：ご意見をいただいた委員にチェックしていただいたうえで、事務局で修正を加えていただくようお願いします。修正後のアンケートにつきましては、発送前に各委員の皆様へ送付させていただきます。

案件3 ワークショップの実施について

部会長：それでは、案件3について、事務局より説明をお願いします。

事務局：【資料3により説明】

部会長：ありがとうございます。先程意見をいただきました、意見交換のテーマ「10年後、20年

後、30年後」がまた出てきています。

事務局：アンケートと同じように、10年後と遠い将来をテーマとします。

委員：高校生に意見交換してもらうため、先の方が良いと思います。

委員：現在予定されている松井山手に新幹線が開通すること等を示していただければ、イメージしやすいと思います。

部会長：ありがとうございます。

案件4 今後のスケジュールについて

部会長：では、案件4今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

事務局：【資料4により説明】

部会長：第1回環境審議会の開催が8月上旬ということで迫ってきておりますが、日程は決まっていますか。

事務局：委員の皆様が一番多く出席できる8月5日の開催を予定しております。審議会では、市民・事業者アンケート、ワークショップの方向性やアンケート集計結果等についての報告をさせていただきます。その他、現環境基本計画の進行管理や状況報告をさせていただきます。

部会長：ありがとうございます。本日の案件はすべて終了しましたが、その他連絡事項はありますか。

事務局：先程もお伝えしましたが、第1回枚方市環境審議会を8月5日に開催させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

部会長：本日の令和元年度第1回枚方市環境審議会環境基本計画策定部会は終了します。ありがとうございました。